

Oil Market Review<sup>20</sup>第21号

2020年（令和二年）

11月27日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

11/12～11/18のNYMEX・WTI先物市場は、40.13～41.82ドルの範囲で推移した。

11月19日は、最近の新型コロナの感染再拡大による石油需要の先細り懸念、このところの原油価格上昇に伴う利食い売りに押され、4営業日より小反落した。OPECプラスによる年明け以降の減産緩和先送りの動きが、下値を支えた。12月限終値は前日比0.08ドル安の41.74ドル。

週末20日は、米ファイザー社が新型コロナワクチンの緊急使用許可を米当局に申請、コロナ禍の早期収束への期待感、また、OPECプラスが12月1日の次回会合で減産緩和見送りで合意すると観測から反発した。なお、米国稼働石油掘削機は前週末比5基減の231基と9週ぶりの減少となった。12月限の終値は前日比0.41ドル高の42.15ドル。

週明け23日は、前週のファイザーに続き、英アストラゼナカが開発中の新型コロナワクチンについて最終段階の臨床試験での70%以上の有効性を発表、早期収束への期待感が高まり、続伸した。直近限月に繰り上がった1月限終値は前週末比0.64ドル高の43.06ドル。

24日は、最近の新型コロナワクチン実用化への期待感の高まり、また、トランプ大統領のバイデン次期政権への引継ぎ容認への好感、さらに、米国株式の3万ドル乗せによって、経済回復への期待感から、続伸した。1月限の終値は前日比1.85ドル高の44.91ドル。

25日は、前日までの堅調な流れに加え、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油は前週比80万バレル減と市場予測(同13万バレル増)に反する取り崩しとなったことが

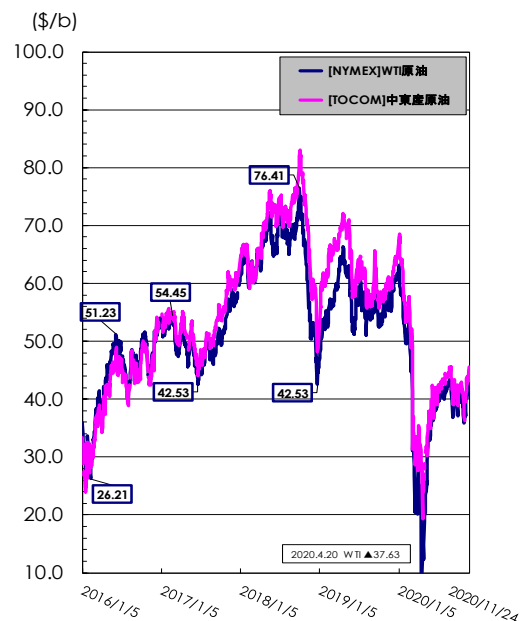
ら、続伸した。1月限の終値は前日比0.80ドル高の45.71ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は11月12日～18日の間42.90～44.30ドルの範囲で推移した。11月19日43.90ドル、20日44.00ドル、24日46.20ドル、25日47.60ドルと推移した。

為替は11月12日～18日の間104.09～105.42円の範囲で推移した。11月19日103.87円、20日103.88円、24日104.58円、25日104.49円で推移した。

そのような中で、11月24日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.6円の値上がり、軽油は同0.6円の値上がり、灯油は1円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは10週ぶりの値上がり、軽油も10週ぶりの値上がり、灯油も10週ぶりの値上がりだった。この週(11月第4週)の原油コストはわずかに値上がりしたが、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社前週比据え置きとなった。

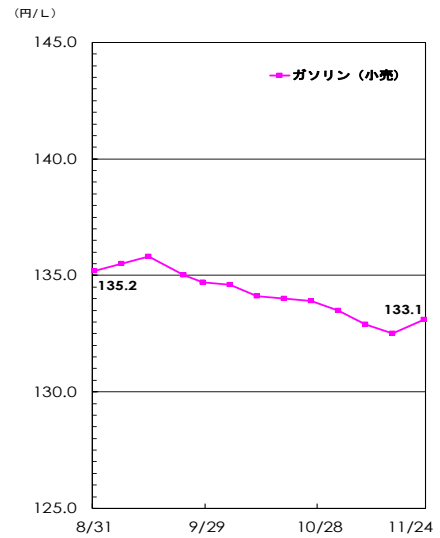
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/15～11/21	2,840 ▲82	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	73.8 ▲2.1	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	11/21	10,923 ▼1,074	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/24	45.57 ▲2.77	▼ -14.9
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/23	43.06 ▲1.72	▼ -15.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月下旬	43.86 ▼0.19	▼ -21.23
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	29,116 ▼152	▼ -15,018
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	105.53 ▲0.09	▲ 2.27
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/24	105.58 ▲0.11	▲ 4.23



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/15 ~ 11/21	794 ▼ -42	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	774 ▼ -16	▼ -
	輸出	"	42 ▼ -22	▼ -
	在庫	11/21	1,895 ▼ -23	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/17 ~ 11/23	43.1 ▲ 1.2	▼ -15.9
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/17 ~ 11/23	40.3 ▲ 0.6	▼ -14.6
	(TOCOM/中部)	11/20	42.7 ▲ 0.5	▼ -14.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/24	133.1 ▲ 0.6	▼ -14.0

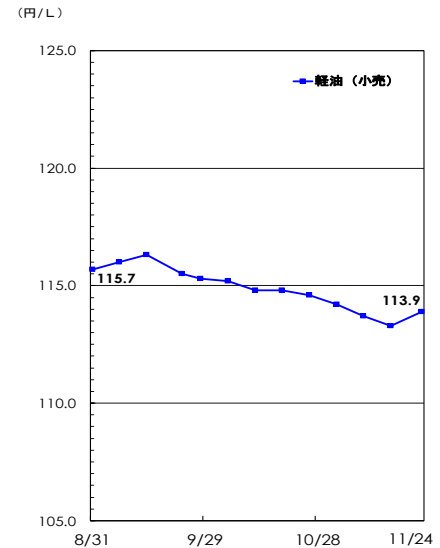
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

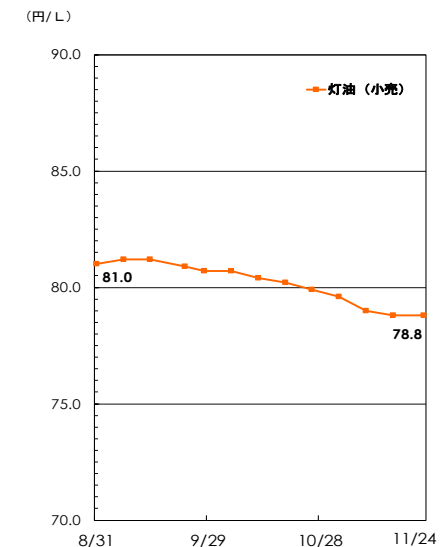
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/15 ~ 11/21	636 ▲ 52	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	617 ▲ 28	▼ -
	輸出	"	21 ▲ 16	▼ -
	在庫	11/21	1,596 ▼ -2	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/17 ~ 11/23	45.5 ▲ 1.7	▼ -16.6
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/17 ~ 11/23	47.1 ▼ -0.2	▼ -16.6
	(TOCOM/中部)	11/20	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/24	113.9 ▲ 0.6	▼ -13.8

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/15 ~ 11/21	411 ▲ 139	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	241 ▼ -153	▼ -
	輸出	"	73 ▲ 48	▲ -
	在庫	11/21	2,863 ▲ 98	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/17 ~ 11/23	45.1 ▲ 1.4	▼ -16.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/17 ~ 11/23	42.9 ▲ 0.4	▼ -16.4
	(TOCOM/中部)	11/20	44.1 ▼ -0.4	▼ -16.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/24	78.8 ➡ 0.0	▼ -13.0



## ■ 関連情報

## 1 海外/原油

11月25日のNYMEXのWTI先物原油は、最近のOPECプラスの2021年初からの減産緩和先送り観測、新型コロナワクチン開発進展への期待等に加えて、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油は前週比80万バレル減と市場予測(同13万バレル増)に反する取り崩しとなり、需要回復への期待感が高まったことから、続伸した。外為市場でのドル安・ユーロ高に伴う原油先物の割安感も値上がり要因となった。1月限の終値は前日比0.80ドル高の45.71ドル、2月限の終値は同0.80ドル高の45.91ドル。

EIAによると、11月23日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.9セント値下がり1ガロン2.102ドル(58.2円/ℓ)、

ディーゼルは同2.1セント値上りの2.462ドル(68.1円/ℓ)となった。ガソリンは2週ぶりの値下がり、ディーゼルは3週連続の値上がりだった。

## 2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年11月15日～11月21日に休止したトッパ能力は35.9万バレル/日で、前週に対して2.5万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は284.0万klと、前週に比べ8.2万kl増加。前年に対しては51.4万klの減少。トッパ稼働率は73.8%と前週に対して2.1ポイントの増加、前年に対しては11.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、A重油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/5.0%減、ジェット/25.4%減、灯油/50.9%増、軽油/8.9%増、A重油/11.1%減、C重油/2.4%増。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は2.1万kl(前週比1.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、灯油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではジェット、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は77.4万kl(対前週1.9%減)と2週連続で減少した。ジェット14.5万kl(対前週169.7%増)、灯油24.1万kl(対前週38.9%減)、軽油61.7万kl(対前週4.8%増)、A重油20.3万kl(対前週6.7%増)、C重油16.1万kl(対前週2.1%減)。

(単位: 千KL)

	今週 (11/15 ~ 11/21)	前週 (11/8 ~ 11/14)	前週比
ガソリン	774	790	▼ -16 (-2%)
ジェット燃料	145	54	▲ 91 (169%)
灯油	241	394	▼ -153 (-39%)
軽油	617	589	▲ 28 (5%)
A重油	203	190	▲ 13 (7%)
C重油	161	164	▼ -3 (-2%)
合 計	2,141	2,181	▼ -40 (-2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月21日時点の在庫は、灯油、A重油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは189.5万kl、前週差2.3万kl減。前年に対しては41.3万kl多い。

灯油は286.3万kl、前週差9.8万kl増。前年に対しては2.7万kl多い。

軽油は159.6万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては3.2万kl多い。

A重油は79.0万kl、前週差0.4万kl増。前年に対しては5.6万kl多い。

C重油は186.4万kl、前週差1.0万kl増。前年に対しては21.5万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (11/21)	前週 (11/14)	前週比
ガソリン	1,895	1,918	▼ -23 (-1%)
ジェット燃料	806	884	▼ -78 (-9%)
灯油	2,863	2,765	▲ 98 (4%)
軽油	1,596	1,598	▼ -2 (-0%)
A重油	790	786	▲ 4 (1%)
C重油	1,864	1,854	▲ 10 (1%)
合 計	9,814	9,805	▲ 9 (0.1%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月17日～11月23日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートの円高がこれを一部相殺し、円建ての原油コストはわずかに値上がりしたと見られる。

次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社据え置きとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月17日～23日の製品スポット市況は、11月10日～16日平均と比べ、軽油の先物取引を除く、全油種・全取引で値上がりした。

直近(11/17～11/23)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(11/10～11/16)比で、ガソリンは1.2円の値上がり、灯油は1.4円の値上がり、軽油は1.7円の値上がりだった。直近(11/17～11/23)において、ガソリンは96～97円台で大きく値上がり後やや値下がり、灯油は44～45円台で大きく値上がり後やや値下がり、軽油は44～46円台で大きく値上がり後わずかに値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(11/17～11/23)に、前週比で、ガソリンは2.0円の値上がり、灯油は1.3円の値上がり、軽油は2.0円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(11/17～11/23)に、ガソリンは97～99円台で激しく値上がり、灯油は42～43円台で大きく値下がり、軽油は45～47円台で大きく値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は0.2円の値下がりだった。先物価格は、同期間(11/17～11/23)に、ガソリン93～94円台で値下がり、灯油42～43円台で値下がり後値上がり、軽油46～47円台で値下がり後値上がりして推移した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	(陸上ローリー 4地区平均)	今週 (11/17～11/23)	前週 (11/10～11/16)	前週比
	レギュラー	43.1	41.9	▲ 1.2
	灯油	45.1	43.7	▲ 1.4
	軽油	45.5	43.8	▲ 1.7

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	(期近物/終値 [平均])	今週 (11/17～11/23)	前週 (11/10～11/16)	前週比
	レギュラー	40.3	39.7	▲ 0.6
	灯油	42.9	42.5	▲ 0.4
	軽油	47.1	47.3	▼ -0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/17～11/23実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 1.2	▲ 0.6	▲ 0.9	
灯油	▲ 1.4	▲ 0.4	▲ 0.9	
軽油	▲ 1.7	▼ -0.2	▲ 0.7	
A重油	▲ 1.8			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

11月24日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円高の133.1円、軽油は同0.6円高の113.9円、灯油は18ℓベースで同1円高の1,419円(1ℓベースでは78.8円で同横ばい)。ガソリンは10週ぶりの値上がり、軽油も10週ぶりの値上がり、灯油も10週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは35都道府県、横ばいは2県、値下がりが10県となった。全国最安値は125.1円の宮城県(前週比横ばい)、その次に安かったのは126.6円の徳島県(前週比0.1円安)、最高値は143.1円の大分県(同0.1円高)だった。最も値上がりしたのは、同2.2円高

の山口県(129.3円)、横ばいは長崎県・宮城県、最も値下がりはしたのは、同0.3円安の沖縄県(138.9円)だった。

今週(11月17日～11月23日)は、指標原油価格は値上がりしたが、為替レートは円安で、これを一部相殺し円建ての原油コストはわずかに値上がりしたと見られる。次週(11月26日～12月2日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。次回調査時(11月30日)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)				
小 売 価 格		今週 (11/24)	前週 (11/16)	前週比	直近高値	
	レギュラー	133.1	132.5	▲ 0.6	08/8/4	185.1
	灯油	78.8	78.8	→ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	113.9	113.3	▲ 0.6	08/8/4	167.4

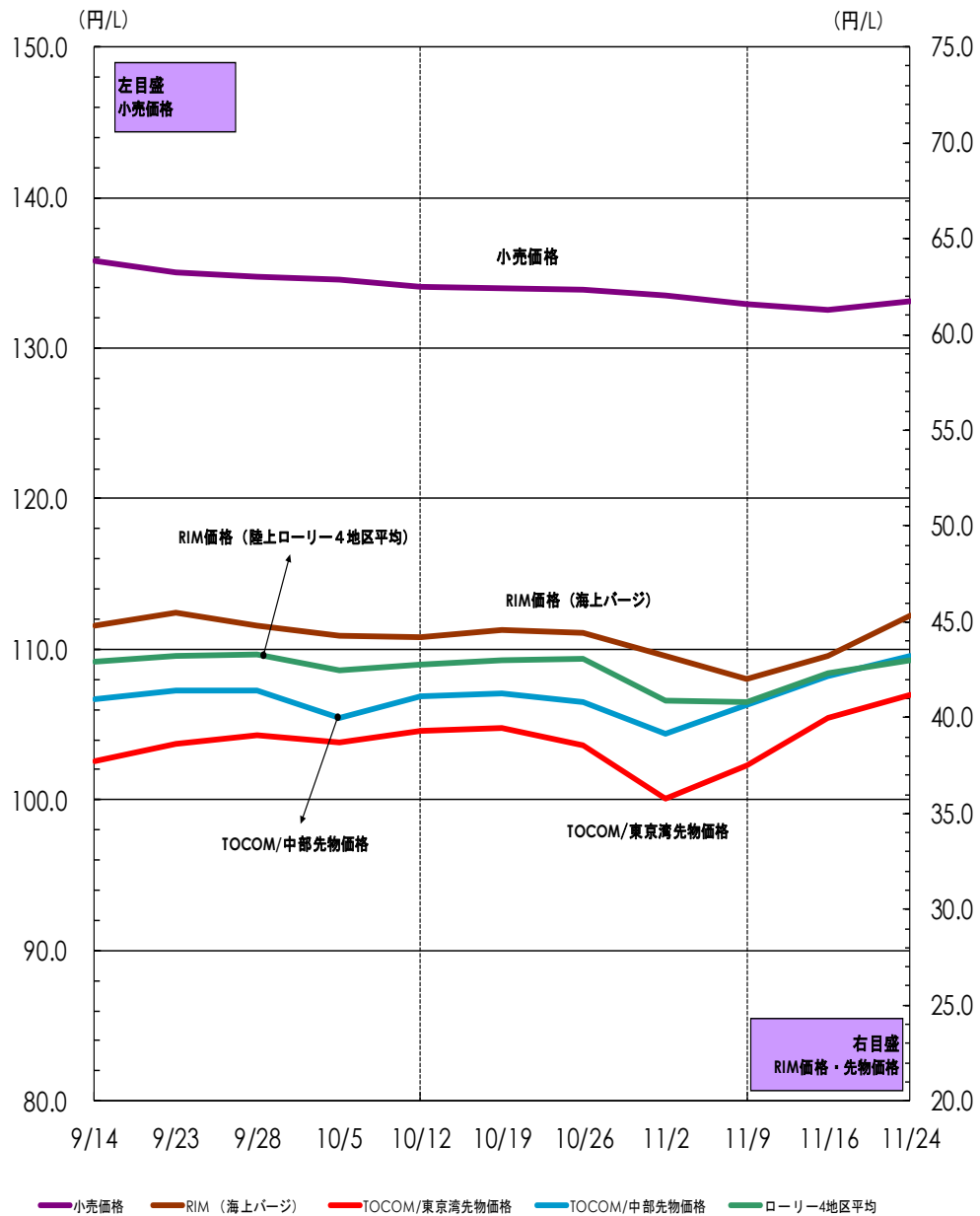
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2020/9/14 ~ 2020/11/24)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2020第22号)の公表は、12/4(金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。